

普及活動情勢報告（平成 27 年 5 月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

オランダ式環境制御技術でレベルアップ ～JA 高知市ハウスミョウガ現地検討会～



新たな管理技術について研修

4月16日、大津、土佐山地区合同のハウスミョウガ現地検討会を開催し、生産者17名が参加しました。現地4ほ場を巡回し、生育や栽培管理状況について検討しました。普及所からはオランダの果菜類での温度管理による草勢のコントロールや、ハウス内の炭酸ガス濃度の重要性について説明しました。オランダ式の環境制御技術に、関心の高い生産者もみられ、多くの質疑が行われました。

今後も、普及所では環境制御技術等に関する情報提供と指導を継続し、生産者にこの技術が浸透していくよう図ります。

販売額をどうやって伸ばすか？検討しています ～鏡村直販店組合～



ただいま試食中

4月28日、「鏡むらの店々々店」において鏡村直販店組合のチーム会を開催しました。地域アクションプランに位置付けて、関係機関でチームを結成し、販売額アップのため様々な取り組みを行っています。そのひとつに、乾燥野菜の商品化があり、今回は白菜とイタダリの乾燥品をチーム員で試食評価しました。評価の良かったものは、学校給食の栄養士さんにも試食していただき、商品化の可能性を検討しています。

これからも、今年度の計画に沿って、チーム一丸となって各課題に取り組んでいきます。

初夏を届けるスモモの現地検討会 ～JA高知市東部果樹部会～



摘果の実技の様子

5月1日、高須地区でスモモの現地検討会が開かれました。高須地区のスモモは露地栽培では最も早く収穫され、初夏を届ける果物として県外に出荷されます。会には関係機関を含め25名が参加し、「摘果」のテーマで検討が行われました。今年は、県下的に着果量が少なく、普及所から、その原因は開花時に受粉をしてくれるハチ等の活動が低温のため鈍かったためと説明しました。

普及所では今後も生産性を向上させる技術指導を継続して行っていきます。

野菜づくりって楽しい！ ～高知市朝倉小学校～



熱心に植え付ける子ども達

5月14日、高知市の朝倉小学校で2年生106名を対象に出前授業を行いました。普及所からは、高知県で栽培されている野菜や、天敵昆虫を使った害虫防除の取り組みなどについて、クイズや体操を交えて楽しくわかりやすく説明しました。今まで知らなかった野菜の特徴を学んだ児童たちは、その後の野菜の植え付けにも興味を持って積極的に取り組んでくれました。

来年も継続して出前授業ができるように、学校に働きかけます。

関係機関で集落営農を推進していきます。～集落営農推進チーム会の開催～



各機関の農業担当者 集結！

5月1日、高知農業改良普及所において、「高知市集落営農推進チーム会」の第一回目のチーム会を開催しました。集落営農を推進していくためには、関係機関の各農業担当者が連携を強める必要があるため、普及所が推進チームの結成に向けて働きかけを行い、結成の運びとなりました。

チーム会では、①普及所から集落営農の必要性について説明、②各地域での課題や共通する課題、既存組織の状況等について、③普及所で今年度から行う集落営農塾の進め方等について検討を行いました。

普及所では、関係機関での効果的な支援体制をコーディネートしながら、集落営農の推進に取り組んでいきます。

キュウリの更なる収量アップを目指して炭酸ガス施用の取り組みが始まる～J A高知春野～



産地・流通支援課の事業説明



炭酸ガス発生装置等の展示会

J A高知春野では、4月24日に産地・流通支援課を招き「高知県環境制御技術導入加速化事業」の説明会が開催され、環境制御技術に関心の高いキュウリ生産者12人が参加されました。

また、5月15日には炭酸ガス発生装置とその周辺機具を取り扱う各メーカーによる展示会を開催しました。その後、炭酸ガス施用機の設置ほ場を見たいという生産者の要望があり、土佐市のピーマン農家を視察しました。視察先の生産者からは炭酸ガス施用を効果的に行えば収量はアップするという話があり、参加した春野の生産者は「炭酸ガス施用機の導入の気持ちが強くなった」と感想を述べていました。

普及所としては、キュウリの炭酸ガス発生装置設置実証ほ場での収量アップ効果の検証を行い、この技術の普及に努めていきます。